

“命を守る”ためのICT活用地域密着型防災システム (光原 弘幸)

(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)

研究開発期間：平成28年度～平成28年度

1 研究開発の概要

南海トラフ巨大地震による甚大な被害が予想される徳島県です。災害・防災を“他人事”と考える地域住民が少なくないことから、(1)住民が気軽に防災活動に参加でき、(2)個人はもちろん地域全体が恩恵を受け、(3)住民だけでなく新来者や観光客も安心できる、**ICT活用地域密着型防災システムを実現して“命を守る”防災を展開する。**

“防災+ゲーム+集合知”の組み合わせに着目し、研究開発の目的として、

- (1) 地域住民が容易に防災情報を投稿したり、ゲーム感覚で防災教材の作成に参加できるWebシステム
- (2) 蓄積・共有された防災情報、防災教材及び実施した避難訓練について住民が議論や災害図上訓練のできるWebシステム
- (3) スマートフォンやタブレット端末上で防災教育(避難訓練)の機会を無理なく提供するモバイルシステムを開発する。

そして、徳島県を中心とした複数地域を対象にその有効性を検証する。

2 期待される研究開発成果及びその社会的意義

開発システムはWebやスマートフォンをプラットフォームとしており、地域防災ツールとして広く普及することが期待される。 ICT活用地域密着型防災を確立し普及させる本課題は、南海トラフ巨大地震を含む大規模災害から国民の“命を守る”という点でその社会的意義は大きい。

3 研究開発の進捗状況と今後の予定

平成27年度までに防災ポータル・防災教材作成システムを完成させ、インターネットを介して広く利用できるようにすることで目的(1)を達成している。

平成28年度は、防災議論Webシステムの完成により目的(2)を達成し、新来者・観光客用避難訓練システムを開発して目的(3)も達成する。

開発システムの具体的な機能には次のようなものが挙げられる。
 現在位置付近に対応づけられた防災情報(最寄りの避難場所等)をスマートフォンやタブレット端末にプッシュ配信する。

ユーザの空き時間や現在位置、次の訪問場所や避難場所までの方角・距離などから、無理なく参加できる避難訓練プランを自動生成する。

避難訓練する時間的余裕がない場合には、過去の避難訓練で最も多くの人が辿った避難経路などを提示する。

また、利用者から得られた意見・要望を積極的に取り入れてシステムを改善していく。そして、これまでの研究成果を基盤として地域防災実践を加速させ、多くの実践データから本課題の有効性を明らかにする。

